

久保山俳句会

2025年12月

1.7 3 1

2

0 0 1

0

1.4 1 1

1 1

0 1 2 0 3

- ① 玉葱の噛む程甘き秋の朝
② 父を待つ日暮れの土間に冬至かな
③ 冬の月才才力ミ鳴くか御岳山
④ 卷雲に龍の鱗の影生ず
⑤ 足袋（たび）裸足（はだし）草木の錦に
 一步を踏む
⑥ 友と行く三人旅の柚子湯かな
⑦ 柿の葉の散りてあらわる
 朱（あか）ひとつ
⑧ 夕焼の色薄らぎて冬に入る
⑨ 冬天のあやとり巨大クレーン車
⑩ 栗おこわ思い出探れば
 零余子（むかご）飯
⑪ 此処（ここ）彼処（かしこ）秋晴れ広場
 空に跳ぶ
⑫ 冬至日やブランコの影ひとり揺れ
⑬ 散る葉にも物語ありて秋しずか
⑭ 托卵（たくらん）のホトトギス啼く
 申しひらきか
⑮ 二坪の祠（ほこら）に撓（たわ）む
 蜜柑かな
⑯ 園内に吸い込まれ歩く銀杏路
⑰ 哀に服す手紙受くるや酉の市
⑲ 手帳閉ぢ身のならひに年惜しむ